

その八

さて、その高知県で4番目の「ワンデーレスポンス」モデル工事です。

高知県の「ワンデーレスポンス」は、CCPM（クリティカルチェーン・プロジェクト・マネジメント）との組み合わせで行われた所に、その大きな特色があります。私は、CCPMの話させれば、この連載が何回分も出来るくらい、それこそ七転八倒のうえに積み重ねた知識と経験があるので、それは別の機会にしておいて、ここで詳しく述べるとはしません。

その重要な要素のひとつに、工事が始まる前、工程を組み立てる前に、工事の目的（O）・成果物（D）・成功基準（SC）を設定しましょう、という決め事があります（頭文字をとって「ODSC」）。

鹿児島県では「工期短縮でガッチリ」プロジェクトというのがあり、詳細な説明は必要ないでしょう。

それはこんなふうな問いかけから始まりま
す。
「工事の目的はなんですか？」
そんなこといきなり言われても、それまで
考えたことがありません。その時もそうでし
た。「そんな面倒臭いことは適当にしておい
て、さっさとその面白そうなCCPMとやら
で工程を引こうや」。口には出しませんがそ
う考えていた私は、最も重要なその部分を適
当に流し、成功基準へと移ります。
そこであろうことか現場代理人は、「評定
点80点以上」ということを成功の基準とし
て口走ります。あわてて私が止めたのです
が、あとの祭り。「代理人が言う事を、あん
たが覆すことはない」とたしなめられる始末
でした。
結果はなんと、80点超え。前年のわが社
の平均が73点台（県平均も同じくらい）だ
ったので、飛躍的な結果です。
そしてことはそれで終わらずに、次の年度

を含めて、完工した県発注工事 8 件のうち 6
件が 80 点以上。更にうち二件は、高知県優
良建設工事施工者表彰で優良賞に輝きます。